

教科(科目)	農業 (草花)	単位数	4単位	学年(コース)	2学年草花園芸
使用教科書	「草花」実教出版				
副教材等	なし				

### 1 学習目標

<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、草花の生産と経営に必要な資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

### 2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
一学期	4	草花生産と消費の動向	・草花園芸の特徴 ①草花生産と経営 ②草花の種類 ③草花の生産形態	24	○	○	○	主な実習内容 ・ほ場での観察と実習 ・シクラメン用土作り ・シクラメンポット上げ
	5	中間考査				○	○	
	6	草花の特徴と栽培技術	・草花生産と消費の動向 ①草花生産の動向 ②消費の動向 ・草花の生育と環境 ①草花の一生 ②根の生長と養分吸収	28	○	○	○	・ほ場での観察と実習 ・シクラメン鉢上げ ・秋花壇苗生産 (ビオラ・ハボタン等)
	7	期末考査				○	○	
二学期	8		③シュートの成長と光合成 ④花芽分化と発達 ⑤生育開花調節と作型	16				・ほ場での観察と実習
	9	鉢もの生産	・鉢物生産の特色 ①鉢花 ・鉢花		○	○	○	・シクラメンの葉組み
	10		②シクラメン		○	○	○	
		中間考査				○	○	
	11	草花の特徴と栽培技術 (続き)	・鉢花 ②シクラメン ・品種改良と繁殖 ①草花の品種と品種改良 ②品種改良の手順と方法	44	○	○	○	

	12		③草花の繁殖方法 ④種子繁殖					
		期 末 考 査			○	○		
三 学 期	1	草花の特徴と栽培技術 (続き)	⑤栄養繁殖	24	○	○	○	・ほ場での観察と実習
	2		・草花の生育と栽培環境 ①草花の生育と土・水・肥料		○	○	○	・花壇苗の生産管理
	3		②草花の栽培管理					
		学 年 末 考 査			○	○		

計 140 時間 (50 分授業)

### 3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の 観点	草花の繁殖、栽培管理など草花に関する基本的な知識や技術を習得する。	草花の繁殖や栽培管理などについて思考を深め、それぞれの課題を適切に判断するとともに、合理的に解決し、表現する能力を身につけている。	草花の繁殖、栽培管理、利用などに興味や関心を持ち、草花に関する知識、技術の習得に意欲的に取り組むとともに、自ら積極的に取り組む態度を身につけている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポート等の取り組み状況・内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポートなどの取り組み状況・内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票の分析 ・学習状況の観察 ・レポートなどの取り組み状況・内容確認 ・ノートの記述 などから、評価します。

#### ※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 25 時間	B「書くこと」 30 時間	C「読むこと」 15 時間
-----------------	-----------------------	------------------	------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

### 4 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポートや課題の作成、提出</li> <li>・ ノートの記述、提出</li> <li>・</li> </ul>
---

### 5 担当者からの一言

<p>草花の栽培について全般的に学習し、基本的な知識を持ち、実践できるまでを目標とします。基本的な知識・技術を身につけるため、シクラメンを中心とした用土作りや各種栽培管理、販売までを一貫して学習します。</p> <p style="text-align: right;">(担当： )</p>
--



草花 (必修)	履修学年	3 学年	履修学科	環境科学科
	単位数	4 単位	履修コース	草花園芸専攻

## 1. 科目の概要

学習目標	草花の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、草花の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。		
使用教科書	「草花」 実教出版	補助教材	

## 2. 授業計画と学習内容

学期	月	授業計画	授業内容	時間	備考	
1 学 期	4	生産施設と栽培環境の調節	施設の機能・構造とその利用 環境調節設備の利用	1 6		
		1 学 期 中 間 考 査				
	5	鉢もの生産	鉢もの生産の特色 経営特性・栽培管理の特性 鉢もの生産資材と商品化技術 鉢の種類 用土・水と肥料 鉢ものの用途と商品化技術 鉢花の種類と栽培上の特性 シクラメン プリムラ類 ベゴニア類	2 2		
	6		花木類			
		1 学 期 期 末 考 査				
	7		観葉植物 観葉植物の種類と特性 フィカス・ドラセナ類 洋ラン ラン科植物の特性	1 4		
2 学 期	8	花壇用草花生産	花壇用草花生産の特色 花壇用草花の特性 花壇用草花の栽培 花壇用草花の種類と特性 花壇用草花の栽培管理	2 4		
	9					
	10					
		2 学 期 中 間 考 査				

	11	切り花生産	切り花生産の特色 切り花の品質保持 1・2年草の切り花	2 4		
	12	2 学 期 期 末 考 査				
		草花経営の改善	宿根草の切り花	1 2		
3 期 学	1		球根の切り花 花木の切り花	2 8		
	2		生産と流通の改善			
	3	学 年 末 考 査				

## 3. 評価について

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら進んで積極的に課題に取り組むことができる。</li> <li>・指示を聞き、正しく課題に取り組むことができる。</li> <li>・草花の栽培や利用に対する知的好奇心が旺盛である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で創意工夫の上、より効果的に課題に取り組むことができる。</li> <li>・課題の意義を踏まえた上で、自分で考え、正しい判断のもとで取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能の向上を意識し、課題に対して丁寧にかつ効率的に取り組むことができる。</li> <li>・学んだことを他の課題に応用し、高い成果をあげることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な用語や数式等の意味、用具等の名称を理解し、正しい使用、説明ができる。</li> <li>・理解を深めることを意識し、課題に対して丁寧かつ効率的に取り組むことができる。</li> </ul>
	実習も多くあります。上記の観点をもとに、定期考査、授業・実習態度、レポート等で総合的に評価します。授業を受けるに相応しくない服装、遅刻・早退・欠席・忘れ物は減点の対象となるので注意すること。			
関連する検定	3級室内園芸装飾技能士の受験が可能。			
担当者からのメッセージ	2年次からの継続授業です。栽培の基本的な知識や技術をしっかり学習します。また、代表的な草花類の基本的な管理方法も学習し、実際に即応した技術も身につけます。			



	中間考査							
	11	草花の特徴と栽培技術	草花の生育と環境 花序・日長	28	○	○	○	○球根類の定植 ○球根類の採花 ○施設の防寒対策
	12	球根類栽培実習 施設の寒害対策	電照栽培とシェード栽培 植物生長調節物質 ダッチアイリス、フリージア					
	1	期末考査						
三 学 期	1	草花の特徴と栽培技術	品種改良と繁殖 生育開花調節と作型	28	○	○	○	
	2	1・2年草栽培実習 球根類栽培実習	ユリ、チューリップ					
	3	草花の特徴と栽培技術	種子繁殖 栄養繁殖		○	○	○	○キクの挿し穂・挿し芽 による苗の増殖
		1・2年草栽培実習 球根類栽培実習	ストック、キンギョソウ、 スターチス、ヤグルマギク					
	学年末考査							

計140時間 (50分授業)

### 3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の 観点	草花に対する知識・技術を身に付けようとしているか。	草花を観察し、花や葉の違いや分類による違いを身に付けようとしているか。	草花を通じて積極的に他者と関わり、進んで実習に取り組んでいるか。
評価 方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・実習での成果 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言 ・レポートの作成 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業での発言や取り組み態度 ・実習での効率的な取り組み態度 ・ノートの提出状況 などから、評価します。

### 4 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートの記入・提出</li> <li>・レポート・課題の作成・提出</li> <li>・</li> </ul>
---

### 5 担当者からの一言

<p>草花の特徴を理解し、栽培、管理の基本的な知識・技術を学びます。販売等の実習を通して切り花の生産から商品としての特性までの基本となる知識・技術を学びます。</p> <p style="text-align: right;">(担当： )</p>
--

草 花	履修学年	3 学年	履修学科	環境科学科
	単位数	3 単位	履修専攻	フラワーデザイン

## 1. 科目の概要

学習目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、草花の生産と経営に必要な資質・能力を育成することを目指す。		
使用教科書	「草花」 実教 出版	補助教材	

## 2. 授業計画と学習内容

学期	月	授業計画	学習内容	時間	備考	
一学期	4	<b>草花の特徴と栽培技術</b> 宿根草の採花・花組・販売 (ガーベラ・カーネーション) 春蒔き一年草の栽培管理 5 (アスター・ベニバナ、ヒマワリ)	草花の生育と栽培技術 宿根草・春蒔き一年草の栽培管理から採花・販売までの一連の実習を行なう。 定植の準備 苗の定植	18	堆肥・肥料・石灰散布、畝立て、マルチ 採花・花組・販売 挿し芽・定植、栽培管理 周辺地域への販売	
	中 間 考 査					
	6	<b>草花の特徴と栽培技術</b> <b>切り花生産</b> 宿根草の栽培管理 (キク) 球根類の堀取り (アイリス) 宿根草の過繁茂対策技術	生産施設と栽培環境の調節 切り花生産の特色 キクの品質管理技術 圃場管理技術	12	摘芯・摘蕾・芽かき・ 下葉掻き・追肥	
	期 末 考 査					
	7	成長調整剤の使用と防除について	草丈の伸長促進や抑制の必要性について対象植物と照らし合わせながら学ぶ。	9		
	二学期	9	<b>切り花生産</b> 秋・寒キクの栽培と管理技術 球根類の堀取り (ユリ・グラジオラス)	切り花の品質保持 1・2年草の切り花 摘芯・摘蕾・芽かきの必要性 球根の貯蔵管理技術	24	栽培管理から販売
		10				



	11	中 間 考 査		
		切り花生産	宿根草の切り花 球根の切り花	12
	12	期 末 考 査		
		切り花生産	花木の切り花	9
三 学 期	1	鉢ものの生産 草花経営の改善	鉢ものの生産の特色 鉢ものの生産資材と商品化技術 生産と流通の改善	21
	2		これまでの学習を基に、栽培技術、作業体系、費用、流通、施設について理解し、一貫体系を改善する能力と態度を養う。	
	3	学 年 末 考 査		

## 3. 評価について

評価の観点	<p>           考査（70%）、課題・提出物（20%）、授業態度他（10%）            品種特性を理解し、その品種にあった知識・技術を身に付けようとしているか。            草花を観察し、生育や管理が園芸的分類による違いを身に付けようとしているか。            草花を通じて積極的に他者と関わり、進んで実習に取り組んでいるか。         </p>
関連する検定	
担当者からのメッセージ	<p>           2学年で学習してきた基本的な栽培学習を踏まえ、各植物の特性に応じた栽培管理の理論と技術を学ぶ。更に高品質な切り花の生産と販売技術を習得する。         </p>

教科(科目)	農業（生物活用）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年 環境科学科 フラワーデザイン専攻
使用教科書	実教出版「生物活用」				
副教材等	なし				

### 1 学習目標

<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、園芸作物や社会動物の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生物活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 生物活用について生物の特性を活用し生活の質の向上につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

### 2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
1	4 5	オリエンテーション	・年間の授業計画、評価方法、施設や備品の使用に関するルール等を理解する。	1	○			プリント(記述の確認)
		第1章 1 生物活用の意義と役割	・生物を活用することにより、人間の生活の質を向上させることができることを理解する。	10	○	○	○	基礎的技術の習得の点検 実習の様子 (行動の確認)
		第2章 園芸作物の栽培と活用	・季節のアレンジメント作製を通して、フラワーデザインの基礎的な知識と技術を身につける。		○		○	レポート・プリント(記述の確認)
		2 草花の栽培と活用	・さまざまなハーブの利用方法の実践を通して、ハーブに対する理解を深め、さらに自ら活用できる基本的な技術を身につける。		○	○	○	
		3 野菜・ハーブの栽培と活用		1	○			
6 7	第4章 生物活用を活用した療法	・生物を活用した様々な療法について理解する。	13	○	○		基礎的技術の習得の点検 実習の様子(行動の確認)	
1	1 生物を活用した療法 2 園芸療法	・園芸療法の効果や概念、対象や特徴などを理解する。		○	○		レポート・演習プリント(記述の確認)	
1	定期考査(1学期末)		1	○	○			
2	8 9 10	第5章 生物活用の実践	・交流活動を行うにあたっての事前準備を通して、園芸療法やその対象に対する理解をさらに深める。	13	○	○		基礎的技術の習得の点検 実習の様子(行動の確認)
		1 交流活動の心がまえ 2 交流活動の実際			○	○		レポート・プリント(記述の確認)
		第1章 生物活用の意義と役割 2 生物活用とプロジェクト学習	・活動目標の設定、計画の立案、実施、評価・反省をもとに次への改善策を考える過程を通して、プロジェクト学習の方法を身につける。		○	○	○	
1	定期考査(2学期中間)		1					
	10	第3章	・人間と動物がどのようにかわつ	15	○	○		基礎的技術の習得の点検

	11	動物の飼育と活用	てきたかを理解する。				実習の様子(行動の確認) レポート・プリント(記述の確認)	
	12	1 動物と人間生活 2 イヌの飼育と活用 定期(中間・期末) 考査	・動物とのふれあいがもたらす、さまざまな効用を理解する。 ・イヌの飼育と管理方法について学ぶ。	1	○	○		○
3	1 2 3	第2章 園芸作物の栽培と活用 3 野菜・ハーブの栽培と活用 定期(学年末) 考査	・タイの伝統文化であるベジタブル・フルーツカービングの実践を通して、ナイフの使い方など基礎的な技術を習得すると同時に、他国の文化を尊重する姿勢を身につける。	13 1	○	○	○	基礎的技術の習得の点検 実習の様子(行動の確認) レポート・プリント(記述の確認)

計 70時間(50分授業)

### 3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・私たちの暮らしと植物および動物の関係について興味・関心を持ち、これらの利用や活用について基礎的な知識と技術を身につけている。	・植物や動物の活用が、人間の生活の質を向上させることができることを理解し、生物の活用がもたらす人間への効用について思考を深める。	・植物や動物の活用の重要性や活用がもたらす人間への効用について興味・関心を持ち、人間と生物との関係について探求しようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

### 4 課題・提出物等

- ・ プリントやレポート、作品などの提出物があります。

### 5 担当者からの一言

「生物活用」の授業では、植物や動物の活用について実践的に学び、基礎的な知識や技術を身につけます。これからの生活の中で、植物や動物を効果的に活用することにより、私たちの生活が潤い、健康的で、幸せな生活に発展することを目指していきましょう。

教科(科目)	測 量	単位数	2単位	学年 (コース)	2学年 環境科学科 地域環境デザイン専攻
使用教科書	実教出版『測量』				
副教材等	なし				

1 学習目標

測量に必要な知識と技術を習得させ、測定機器の特質と地理的空間情報の処理と利用について理解させるとともに、環境保全や農林業に応用する能力と態度を育てる。

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
	4 5	測量を学ぶにあたって 第1章 距離測量 (1)距離測量用器具 (2)距離の測定 (3)測距器械による距離の測定	・測量技術は私たちの生活をさせていることを理解する。 ・距離の概念を理解させ、距離測量の器具や実際の測距方法について学ぶ。	8	○ ○ ○	○ ○ ○	○	巻尺の各種補正計算ができる
	1学期中間考査（返却を含む）			2	○	○		
	6 7	第4章 細部測量 (1)平板測量の器具 (2)平板測量の方法 (3)平板を用いた細部測量	・セオドライトの構造を理解し、すえつけ操作を習得させる。 ・各測角方法を理解し、その方法を実習するとともに誤差について理解する。 ・骨組測量としての道線法を理解する。 ・細部測量としてのオフセット法を理解する。	16	○	○	○	授業時間のおおよそ半分を実習とする
	1学期末考査（および返却）			2	○	○		
	9 10	第5章 水準測量 (1)水準測量の用語 (2)水準測量の器械・器具 (3)レベルの検査・調整 (4)水準測量の方法	・レベルの種類、構造を理解する。 ・水準測量の器械・器具の取扱について実習し、実際の測量方法を理解する。	14	○	○	○	授業時間のおおよそ半分を実習とする
	2学期中間考査（および返却）			2	○	○		
	11 12	第7章 面積および体積 (1)面積の計算 第9章 地形測量 (1)地形図 (2)地形測量の順序	・計算過程とその理論を理解し、適切な計算方法を身に付ける。 ・地形測量が、各測量の総合的な測量であることを理解する。	14	○	○	○	三角区分法、座標法による計算
	2学期末考査（および返却）			2	○	○		
	1 2	第13章 測量技術の応用と自然災害 (1) 地理情報システム (GIS) (2) 測量技術と自然災害	・コンピュータを用いて、GSI環境を体験し学びを深める。 ・GSIを活用できる技術を身につける。	10	○	○	○	iPad、CADパソコンを活用
	3学期末考査（および返却）			2	○	○		

計 70時間 (50分授業)

### 3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	測量に関する基礎的・基本的な知識・技術を習得し、測量技術を探求する方法を習得できている。	測量に関する知識と技術を活用して適切な判断を行い、導き出される考え方を的確に表現することができる。	測量に関心や探求心をもち、実習において自ら積極的に役割を担い、主体的に取り組むことができる。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・測量成果レポート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・測量成果レポート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・測量成果レポート ・学習課題レポート ・実習に取り組む態度 などから、評価します。

### 4 課題・提出物等

- ・ 平板測量、水準測量では、班に分かれて実習し図面や成果票を作成、提出します。
- ・ 測量成果を計算するためにコンピュータを活用し、その結果を提出します。

### 5 担当者からの一言

あらゆるインフラストラクチャー（道路、建物、橋梁、鉄道、港湾、ダム、公園、農地 etc）を整備するための出発点は測量です。ここでは、幅広い分野で活用される測量技術を学びます。スマートフォンの位置情報、地図サービスなども測量技術の一部です。

教科(科目)	地域資源活用	単位数	2単位	学年 (コース)	2学年 環境科学科 地域環境デザイン専攻
使用教科書	実教出版『グリーンライフ』				
副教材等	なし				

1 学習目標

地域資源を有効に活用する活動に必要な知識と技術を習得させ、農業や農村の持つ多面的な機能と対人サービスの特性を理解させるとともに、交流、余暇活動を導入した経営の改善を図る能力と態度を育てる。

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
1 学期	4	第1章 グリーンライフとは	・人間生活とグリーンライフ ・農山村と都市の現状と変化	8	○			○グリーンライフの必要性について学習します。
	5	1学期中間考査 (および返却・解説)		2	○	○		
	6		・地域社会の変化と社会的起業活動 ・グリーンライフ推進のための方策	12	○			○グリーンライフの動向、実践例について学習します。
	7				○	○		
	1学期末考査 (および返却・解説)		2	○	○			
2 学期	9	第2章 農林業・農山村の魅力と地域づくり	・農林業・農山村の魅力 ・身近な地域資源の発見と活用	16	○			○地域資源の利活用方法について学びます。 ○地域農産物の活用例を学びます。
	10				○	○	○	
	2学期中間考査 (および返却・解説)		2	○	○			
	11		・農山村の資源と景観の特質 ・地域づくりとグリーンライフ活動	14	○			○地域で行われている祭礼や郷土芸能について学びます。
12	○				○	○		
2学期末考査 (および返却・解説)		2	○	○				
3 学期	1	第3章 グリーンライフ活動	・都市と農山村の共生・対流にみるグリーンライフ活動 ・グリーン・ツーリズムの取り組み ・農林業体験	10	○			○農業・農村体験の企画と指導に必要な知識を学びます。 ○農業・農村の総合的な活用方法を学び、次年度のグリーン・ツーリズムの企画につなげます。
	2					○	○	
	3学期末考査 (および返却・解説)		2	○	○			

計 70時間 (50分授業)

### 3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	農村や農業の持つ資源や役割・機能に関する知識を身につけ、多面的な機能を活用した活動を理解している。地元の資源を活用する方法を身につけることができる。	農業、農村の持つ魅力を再発見し、対人サービスとの関連を考察し、課題を適切に判断し、課題の解決を図るためのアイデアを提案することができる。	農業の多面的機能や交流・余暇活動に興味・関心を持ち、課題の解決を図るための具体的な活動計画を作成することができる。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査 ・ 学習課題レポート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査 ・ 学習課題レポート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査 ・ 学習課題レポート ・ 課題に取り組む態度 などから、評価します。

### 4 課題・提出物等

- ・ 学習課題レポートは、地域資源を活用した商品開発（企画・計画の立案）、広報・宣伝活動（ポスター作成、POP作成、WEBデザインなど）をテーマとして取り組みます。

### 5 担当者からの一言

グリーンライフは地域の人々と関わり、地域について学ぶ授業です。また「おもてなしの心」を大切にした対人サービスについても学びます。社会に出ても恥ずかしくない「マナー」や「コミュニケーション能力」についても学びますので普段の授業から正しい服装、言葉遣い、態度を心掛けてください。

環境緑化材料 (必修科目)	履修学年	3 学年	履修学科	環境科学科
	単位数	2 単位	履修専攻	地域環境デザイン専攻

## 1. 科目の概要

学習目標	環境緑化のための植物の育成や造園空間の構成に使用する材料について必要な知識と技術を習得させ、環境緑化材料の特性を理解させるとともに、材料を適切に取り扱い、活用する能力と態度を育てる。		
使用教科書	環境緑化材料 (東京電機大学出版局 文部科学省)	補助教材	配付プリント

## 2. 授業計画と学習内容

学期	月	授業計画	学習内容	時間	備考
1 学 期	4	◎環境緑化材料の特色と役割 ◎植物材料	・花壇用の植物の種類や特性を学び、立地条件に適應する植物の選択を理解する。	2 1	○花壇に使われる植物の調査を実施 ○造園樹木調査を実施 ○農業鑑定競技の出題範囲の樹木鑑定テスト実施 ○造園樹木の剪定、刈り込み実習
	5	1 花壇用草花 (1)花壇とは (2)主な花壇用草花			
	1 学 期 中 間 考 査				
	6	2 造園樹木 (主に落葉樹) (1)造園樹木の種類 (2)造園樹木の特性 (3)造園樹木の育成・繁殖 (4)植木の流通	(テスト返却、解答、復習) ・環境や植物の生態的要素、使用方法などを考慮した樹木の選択について学習する。		
	7	1 学 期 期 末 考 査			
			(テスト返却、解答、復習)	5	
2 学 期	8	3 造園樹木 (主に常緑樹)	・環境や植物の生態的要素、使用方法などを考慮した樹木の選択について学習する。	2 5	○農業鑑定競技の出題範囲の樹木鑑定テスト実施  ○農業鑑定競技の出題範囲の石材のスケッチを行う。
	9	(1)造園樹木の種類 (2)造園樹木の特性 (3)造園樹木の育成・繁殖			
	10	4 地被植物 (1)地被植物の種類 (2)地被植物の特性 (3)主な地被植物			
		◎岩石材料	・岩石材料の種類の特徴を学び、立地条件に適應する岩石の選択を理解する。		
		1 岩石 (1)岩石の種類 (2)主な岩石の種類と特徴			
		2 自然石材 3 加工石材			



	11	2 学 期 中 間 考 査			
	12	◎各種材料	・造園空間の創造に用いられる各種材料の分類と特性を学習する。	5	○造園樹木の剪定、仕立て実習 ○造園樹木の掘取り、根巻き、移植実習 ○造園樹木の雪吊り、冬囲い実習
		1 木材 (1)木材の分類 2 竹材 (1)竹材の種類と特性 (2)市場規格と用途 3 金属材料			
	2 学 期 期 末 考 査				
		(テスト返却・解答・復習)	5		
3 学 期	1	4 枝材と繊維材 (1)枝材 (2)繊維材 5 新しい環境緑化材料 (1)種類 ◎まとめ	・新しい環境緑化材料を含めた各種材料の種類や特性・用途を理解し、造園空間の目的や施工に応じて適切な材料選択を理解する一年間の復習とまとめ	1 4	○わらぼっち、飾りづくり実習 ○ロープワーク実習
	2	学 年 末 考 査			
	3				

3. 評価について

評価の観点	① 関心・意欲・態度	② 思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
評価の観点	環境緑化材料について興味関心を持ち学習に意欲的に取り組む姿勢が見られる。	環境緑化材料の生息を理解し、植栽・管理の正しい判断ができる。	授業内容を応用し、植栽・管理作業に対し、しっかりと技術が身につけている。	環境緑化材料の特性を理解し、管理実習の目的をしっかりと理解している
関連する検定	造園技能検定（3級、2級） 造園施工管理技術検定（2級 筆記試験）			
担当者からのメッセージ	①指定の実習服、長靴等の着用を徹底するとともに、時間を厳守すること。 ②季節的または天候により、授業内容に変更を生ずることがあります。 ③天候不良時(小雨)でも実習をすることがあります。(雨具は個人で用意する。) ③ 樹木、庭園を通しての造園の美学、物づくりの楽しさ、素晴らしさを体験し、さらには緑の保全、地球規模の環境問題にも興味関心を発展させていきます。			

水循環	履修学年	3 学年	履修学科	環境科学科
	単位数	2 単位	履修コース	地域環境デザイン専攻

## 1. 科目の概要

学習目標	水を有効かつ永続的に利用するための基本的な知識と技術を習得する。地球上の水の循環と環境や生物との関わり、人間活動が水循環の中で営まれることを理解させるとともに、環境保全に配慮し農業の持続的な発展に活用する能力と態度を育てる。		
使用教科書	水循環(文部科学省)	補助教材	配付プリント

## 2. 授業計画と学習内容

学期	月	授業計画	学習内容	時間	備考
1 学 期	4	第4章 水と土の基本的性質	第1節 水の基本的性質	10	○水の基本的性質と水を保持する土の役割と関係性について学びます。
	5	1 学 期 中 間 考 査		1	
			第2節 土の基本的性質	12	
	6	1 学 期 期 末 考 査		1	
	7		(考查返却・復習・まとめ) 第3節 土中の水	2	
2 学 期	8	第5章 農業水利	第1節 利水と治水	12	○利水と治水について学習を深め、実際の水利施設の概要について学びます。
	9	2 学 期 中 間 考 査		1	
	10		(考查返却・復習・まとめ) 第2節 かんがいと排水 第3節 水利施設	14	
	11				
	12	2 学 期 期 末 考 査		1	
			(考查返却・復習・まとめ)	2	
3 学 期	1	第6章 水と生活環境	第1節 水の有効利用と水質保全 第2節 農業用水の多面的利用	12	○水資源の保全技術について学びます。 ○農業用水の持つ多面的機能について学びます。
	2	学 年 末 考 査		1	
	3	まとめ	(考查返却・復習・まとめ)	1	

## 3. 評価について

	① 関心・意欲・態度	② 思考・判断・表現	③ 技 能	④ 知識・理解
評価の観点	水循環を中心とした環境の創造と生産分野についての関心を深め進んで授業に参加する姿勢がみられる。	水と農業や生活との関係について体系的な知識を習得し、水循環の中で環境保全との均衡を保つことにより持続的利用が可能である事が理解できる。	農業水利や水の循環について必要な基礎的・基本的技術を身につけることができる。	農業の発展と環境保全とを両立させながら持続的な水利用の方法についての基本的な知識を理解している。
	定期考査 60%、提出物 30%、出席・授業態度 10%で評価する。			
関連する検定	特になし			
担当者からのメッセージ	人口が増加し人類が発展していく中で、限られた水資源の利活用の方法について重要性が高まっています。授業の内容を通して水の循環と生物の関わりや水と土の性質、農業水利について意欲的に学んで欲しいと思います。			